

373 ワイド

フォーカス

KSAT機体設計責任者

宮原 照昌さん(58) 南さつま市加世田武田

キラリ

「衛星を宇宙に上げる夢はかなったが、目標は達成できず成果は半分。これからです」

鹿児島大学や地元企業で

作る「鹿児島人工衛星開発部会」が製作し、2010

年5月にH2Aロケット17号機で打ち上げられた鹿児島

島人工衛星(KSAT)。

電波受信に一時成功したものの行方不明になり、目標

としていた大気中の水蒸気

分布観測は達成できなかった。機体・構造設計の責任者としてKSAT2の開発に力を入れ、宇宙への再挑

戦を狙う。

宇宙へ上げる夢になった、次は成果

日本で唯一ロケットの射場がある鹿児島。衛星打ち上げを計画していた鹿児島大学の西尾正則教授に誘わ

れるきっかけにしたい。思いは同じ。05年から製作に参加した。

追いつけることが、関連企業の育成や集積の第一歩だと信じた。

KSATは一边10センチの立方体形の超小型衛星。送受信で捉えられる低い周波数の

電波を加えた。「0.1メートルで調整しないと収まらない」という各製品の配置や配線も一から見直した。

機体側面に開閉式の太陽光パネルを設置、発電能力を最大3倍に高めた。これで、25秒に1回が限界だった電波送信回数は、2秒に1回程度まで増やせる。「今振り返れば、初号機は冒険的で、確実性は低かった。実績も踏まえ、確実に目標を達成できる設計になっていると思う」と自信をみせる。

KSATの試作機を手にする宮原照昌さん
＝12日、始良市北山のスターランドAIRA



19日には、鹿児島市立科学館でKSAT模型の展示を行う。「多くの人にKSATを知ってもらい、鹿児島産の衛星として応援してもらいたい」

KSAT2は、13年度のH2Aロケット相乗り衛星に申請中。今月中にも結果が公表される見通しで、朗報を心待ちにしている。

(社会部・下野敏幸)

みやはら・てるまさ 南さつま市出身。光ディスク修復装置や発光ダイオード(LED)照明を手掛ける精密機器製造会社エルム(同市、従業員45人)の専務取締役。KSAT製作を鹿児島人工衛星開発部会から引き継いだNPO法人鹿児島人工衛星開発協議会の理事を務める。